

健全で豊かな森林づくりプロジェクト 全体評価

平成23年2月18日

全体評価

○プロジェクトの評価

◆施業集約化

- ・施業地集約化計画の達成度の低さが、当年度以降の路網整備、利用間伐に影響していると推測。
- ・プロジェクト当初は計画遂行の意欲が高く実績確保も順調だが、数年後には実績の浮沈が顕著。(推進体制の有無が影響)
- ・他方、森プロ実施で獲得した地域の信頼感により、民間林業事業者が新たな施業地を確保する等、事業者経営が安定化。

◆路網整備

- ・森プロの実践により、低コスト木材生産を実現するポイントが林内路網の整備であるという意識が醸成された結果、林業経営の基盤となる路網の整備は着実に進展。
- ・上記の相乗効果として、これまで小規模分散的であった施業地の面的集約化も進展。

◆低コスト化(木材生産性向上)

- ・路網整備の進展により、高性能林業機械の年間稼働率が向上し、着実に生産性が上昇。
- ・間伐生産性・コスト分析シートなどの利用により、工程別生産性やコストが明確に把握され、改善点が明確化。
- ・高性能林業機械の導入による省力化を主目的とせず、作業の工程間格差解消を目的とした低コスト作業システムを構築。

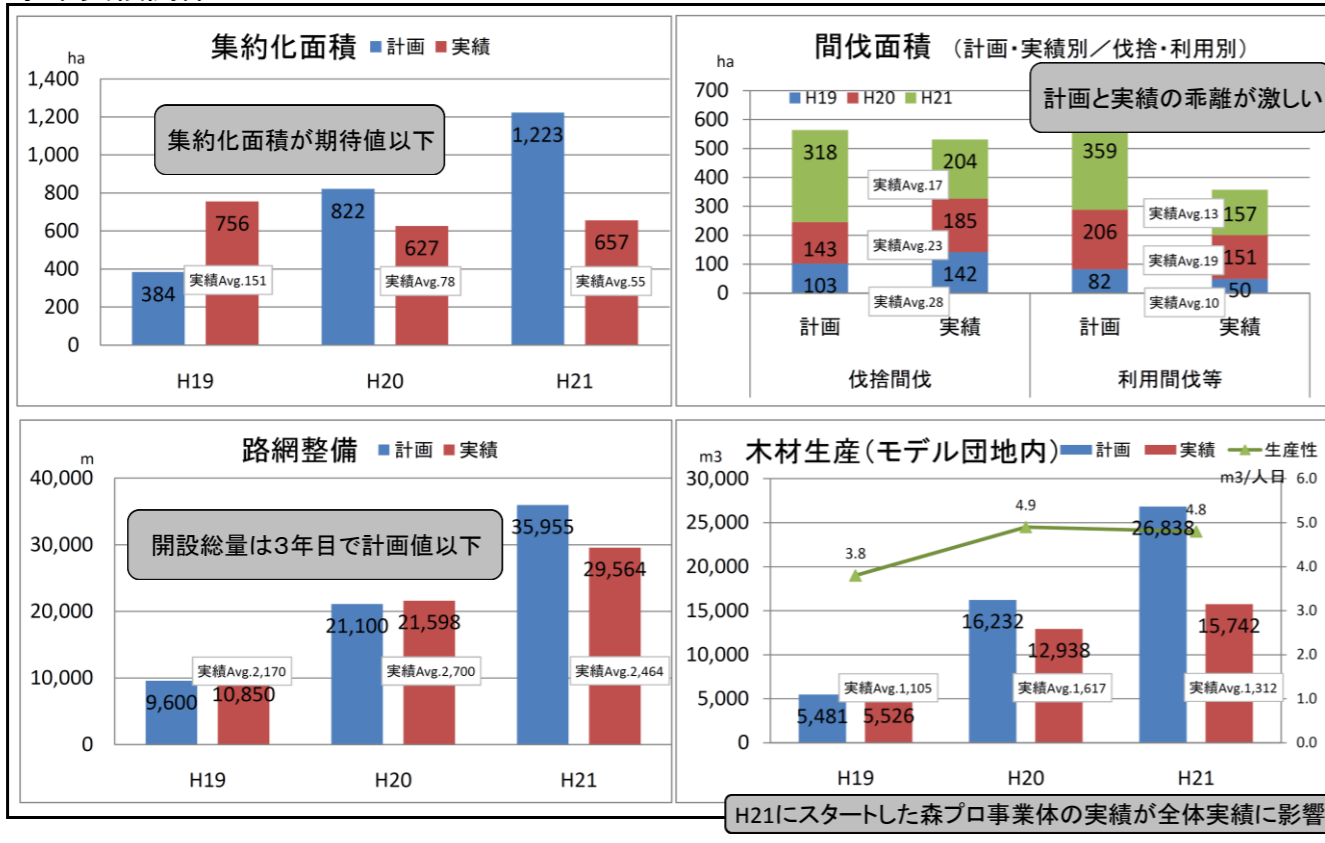
◆その他

- ・当面の取り組み目標(JV推進体制、路網密度、生産性、生産コスト、機械の組み合わせ等)が徐々に形式知化。
- ・各プロジェクト実施者の実力差(知識・技術レベル)が明確化されたことで、各プロジェクトにおける改善課題が顕在化。
- ・林業普及指導員と民間事業者、森林組合等との関係が緊密化し、情報共有が図られ意思決定・行動が迅速化。
- ・研修受講やプロジェクト実践等を契機に事業者担当者の主体性が醸成され、知識や技術獲得意欲も向上。
- ・単年度毎のコスト管理・採算性確保を追求した結果、環境への負荷(残存木への損傷等)を軽視する傾向が散見。
- ・木材資源の供給のみならず環境、保養といった公益的な面からの森林づくり、森林利用という長期的視点が欠落。

○プロジェクトの課題

- ・プロジェクト実践や研修受講等で培った**林業経営に必要な知識・技術が断片的に整理され、総合的に発揮されていない。**
- ・森プロモデル団地内に、施業集約化、路網整備、木材生産等が集中する傾向にあり、**実施効果が地域限定的。**
- ・将来ビジョンと組織統率力を有した**プロジェクトリーダー(経営者クラス・チーフクラス)が不足。**

事業実績関係



事業制度関係

○事業主体の選定方法

- ・プロポーザル方式の採用により、地域に密着したきめ細やかな森林整備が進展、事業者側側の説明責任能力も向上。
- ・外部有識者で構成された候補選定委員会設置により、客観性と公平性を伴った行政による集中支援を実現。

○JV制度

- ・森林組合と民間林業事業者の信頼関係を構築した反面、結果的に関係悪化を招いた事例もある。
 - 1) 成功パターン
 - ・民間林業事業者が森林組合の下請的に共同体を設置/飛騨高山間伐材テクJV
 - 施業集約化が順調、森林組合は安定的に事業地を提供。受注単価交渉も問題なし
 - 2) 要改善パターン
 - ・民間林業事業者と森林組合が対等の立場で共同体を設置/樺JV・円原JV・中濃JV
 - 森林組合の施業集約実績が総じて低調。結果、スケールメリットを生かせないため、モデル団地外での施業を余儀なくされたり、請負単価交渉等が難航し、関係が一層悪化したケースもある。

予算関係

○高性能林業機械の導入(36台導入:補助関係)

- ・森プロへの集中支援に制度改革した結果、コスト管理意識の醸成、事業採算性の厳格化等を施策誘導。
- ・森林組合と民間林業事業者の補助率を同率に設定し、低コスト木材生産を推進。
- ・国施策(加速化基金)の影響で、県独自に設けたインセンティブ(優先導入)が事実上、消失し影響大。

○間伐材搬出補助(34,206m³搬出:一部、高齢級林分等補助対象外を含む)

- ・地域を限定(森プロモデル団地内)した支援制度への改革が、木材生産活動を下支え。

○その他、各種事業の優先採択

- ・路網整備を中心とする森プロモデル団地への集中投資の結果、低コスト木材生産を促進。

知識・技術獲得関係

○各種研修会の実施(地域森林管理・経営に関する研修会 参加延べ人数 1,783人)

- ・各種研修受講により、プロジェクト責任者が木材生産性やコスト計算等に関する知識・技術を獲得。
 - Ex. 当面の各種目標指標/効率的な施業集約化手法(行政施策との積極連携等)、施業方針(選木や間伐の判断基準等)、低コスト路網作設手法(線形配置、丸太組施工等)、最適路網密度(路網系:100m/ha、架線系:50m/ha)、最適作業システム(安全を重視した路網規格と機械の組み合わせ)、利益還元額(1,000~2,000円程度/m²)、木材生産量(3,000m³/年)等
- ・主体性のある思考と行動力の発揮を期待し、研修時にはワークショップ手法を積極的に活用した結果、体験共有による密な情報交換により自主的な意見表出等が常態化し、林業関係者のコミュニケーション能力を向上。
- ・当該研修効果を認識した結果、類似研修で百花繚乱状態となり、リーダー候補の重点養成方針が曖昧化。

その他

○対外認知度の向上

- ・全国から視察受入れ
- ・HPでの情報発信
- ・講演会等で実績発表 など

○環境配慮活動

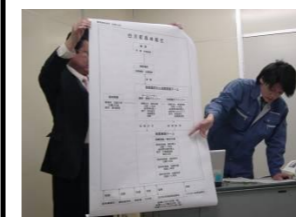
- ・定期的な河川濁度調査(路網整備関係)など



健全で豊かな森林



壊れにくく低コストな林内路網



事業提案



高性能林業機械の導入



森プロフォローアップ委員会



地域森林管理・経営研修会